

# 渥美郡三町の時代



郷土史編さん室 ☎36局6503

仰ぎ見る山から  
渥美半島を展望する山へ  
蔵王山の開発60年へ

「あなたに蔵王仰ぎつつ…」田原東部小学校、「いやますかおり蔵王山…」田原中学校、「なつかしき衣笠蔵王…」成章高校。旧田原町内の小学校、高等学校の校歌には蔵王山が数多く歌われています。渥美半島のシンボリックな山であり、標高250mの仰ぎ見る存在です。また、「信仰の山」であり、蔵王の名前の由来であるともいわれる吉野金峯山寺蔵王堂の菩薩を勧請し、蔵王権現が昭和47年に再



●蔵王山頂にあった皿投げ場(昭和40年代) 前方の的を目がけて投げる

建されています。

その仰ぎ見る蔵王山に開発の手が加えられたのは、今から約60年前の昭和34年からです。まず観光道路の工事を自衛隊がブルドーザーを使って進め、昭和38年に完成しました。翌39年には名古屋鉄道株の資本により蔵王山展望台ができ、観光地としてスタートしました。

昭和40・50年代、蔵王山を訪れる観光客は年間約15万人ほどでした。海水浴客が訪れる8月が最も多く、

秋の行楽シーズンも観光客の呼び込みを図りました。「秋の蔵王山まつり」として催し物も行われました。「空中皿投げ大会」もそのひとつでした。また、ふもとは観光客用のみかん狩り園も開かれました。昭和49年11月には、皇太子ご夫妻がお立ち寄りになられ、三河港の整備状況などを視察されました。

展望台は完成から約30年たった平成5年に、老朽化に伴う建て替え工事を始め、翌6年に完成しました。この年開催の「わかしゃち国体」に合わせる意味もありました。展望台の営業は昼間だけでなく、夜の9時まで行いました。夜景の美しさが認められ、平成16年には「日本夜景100選」に選ばれています。

昭和36年6月の「田原広報」では、「蔵王に登れば眼下にひらける渥美湾の静けさ、ポツカリ浮かぶ神秘的な姫島、仁崎から大洲崎とつづく海岸線…」と山頂からの景色を述べ、平成6年4月の「広報たはら」では、「三河湾側を向くと、臨海部の埋立造成地をはじめ、リゾート開発中の白谷海岸…」とその変貌を表しています。蔵王山はこの60年で、仰ぎ見る対

象の山から、私たちがその山頂に足を置き、現在と将来の半島の姿を展望する所となりました。  
(執筆委員・藤原喜郎)

●蔵王山展望台(昭和50年代後半)



## 今月の「表紙」

▼「もっと花の素晴らしさを感じてもらいたい」  
2月20・21日の両日に開催される「渥美半島 花の超祭典」は、花の生産者の皆さんの熱い思いから実現したイベントです。使用する花の数は驚きの1万6千本！趣向をこらした「百花繚乱」ならぬ「万花繚乱」の会場で、笑顔の花も咲かせましょう。(H)  
【表紙の写真】渥美半島2月の花(ガーベラ)の花束